



新正会 加藤忠勝 議員

公共交通について

問 昨年10月より実証実験運行を行っている基幹バスの新路線について、その利用状況を伺います。

答 総合政策部長 今回の実証実験では、蓮沼・空港道路線および山室・豊岡循環線を運行しています。

本年8月末時点での利用者数は延べ4046人となっております。その内訳は、蓮沼・空港道路線は3230人、山室・豊岡循環線は816人です。

一便あたりの人数で換算すると、平均0・6人の利用者数となり、利用状況としては非常に厳しい状況です。

問 現在の市内小中学校におけるスクールバスの運行状況を伺います。

答 教育部長 スクールバスを運行している学校は、市内で3校あります。松尾小学校は2ルートでマイクロバ

ス2台を、日向小学校は4ルートで大型路線バス3台、中型路線バス1台の計4台を、山武望洋中学校は大型路線バス2台を、それぞれ運行しています。

登校時には、小中学校ともに部活動のある日は2便を、下校時には、小学校では3便を、中学校では2便を運行しています。

その他、学校行事に合わせた特別ダイヤや、カリキュラムおよび気象状況に応じた時刻変更など、柔軟に対応し、運行を行っています。



スクールバス

ス2台を、日向小学校は4ルートで大型路線バス3台、中型路線バス1台の計4台を、山武望洋中学校は大型路線バス2台を、それぞれ運行しています。

問 君津市の小糸地区では、スクールバスの車両空き時間にデマンド交通として稼働させる実証実験を行っています。本市のスクールバスにおいても、一般市民の多目的利用を前提とした公共交通への活用が可能であるか、市の見解を伺います。

答 総合政策部長 本市のスクールバスは一般的な路線バスと同様の車両を使用しています。また、スクールバスの性質上、学校のカリキュラム変更や悪天候時の急な下校にも柔軟に対応する必要があります。

公共交通で要となる定時性の確保や便数の確保という面から、同車両をデマンド交通として用いることは、非常に難しいと考えます。

航空機騒音対策について

問 成田空港C滑走路の新設に伴い、令和2年4月に、松尾町八田琴平地区が、新たに騒防法第1種区域に指定されました。

これに伴い、新たに、防音対策工事費用等の助成対象となる、世帯数および家屋戸数について伺います。

答 総合政策部長 新たに指定された松尾町八田琴平地区で対象となる世帯は208件で、工事対象戸数は263戸を見込んでいます。

問 その新たな指定区域における、申込状況等について伺います。

答 総合政策部長 本年8月末日時点で、申込件数は130件です。

また、NAA（成田国際空港㈱）に確認したところ、山武市全体では24件の設計が終わっており、16件の防音工事が完成していると聞いています。

問 工事の着工が遅れているとの声を聞きますが、その原因について、市の見解を伺います。

答 総合政策部長 助成制度を利用するにあたり、設計業務を発注する必要があります。発注先の多くは、NAAが助成する防音工事の実績がある地元設計業者へ依頼が集中しており、工事着手遅延の原因の一つであると考えます。

そのような状況を受け、NAAでは、設計会社の新規参入を促進するため、設

計事務所向けの説明会や個別相談を実施しています。

また、助成申請者に対しては、最新の設計者リストを配布し、引き続き、周知を図っていくと聞いています。

問 一般の資材価格の高騰を反映した設計単価の見直しの予定について伺います。

答 総合政策部長 NAAによると、現在の単価設定には、防音サッシメーカーの見積りも併用しており、市場価格が一定程度反映される仕組みとなっております。

また、工事単価の見直しは年1回行っていますが、昨今の急激な物価上昇を考慮し、資材費や労務費等の動向を調査し、中間期における工事単価の見直しを含め、検証を継続していく予定であると聞いています。

問 現在のこの状況について、市の見解を伺います。

答 総合政策部長 市としても、C滑走路の供用開始となる令和10年度末までに、防音工事の希望者すべてが早期に工事完了するよう、NAAに要望していきたいと考えます。



提供：成田国際空港㈱